

令和元年第1回行財政評価委員会・会議録

日時 令和元年10月15日（火）午後2時～4時

場所 市役所3階 301会議室

出席者 河内長野市行財政評価委員会 4名（欠席：橋寺委員）

事務局 小林総合政策部長、谷ノ上政策企画課長、及び政策企画課職員

事業担当部（課） 環境経済部（環境政策課、環境衛生課、産業観光課）

都市づくり部（都市計画課）

傍聴者 なし

案件1. 委員長、副委員長の選出について

委員長に中川委員を、委員長がかけたときに職務の代理を行う副委員長に農野委員を選任する。

案件2. 第5次総合計画の各施策に対する外部評価

○施策 No. 22 循環型社会の構築

<担当部局から評価結果の概要を説明>

<主な質問、意見>

委員：非常によくやっておられるという印象である。住みよさ指標として市民満足度を設定されているが、その前段として、どれだけの方がこれらの事業を認知されているかが重要である。様々な団体が関わられるなかで、各団体がどのように周知しているのか。特にふれあい収集がどのようにつくられたのか。市民の声であればいいなと思った。

担当課：ふれあい収集について、本市はステーション方式により回収を行っているが、要介護2以上の方で、ゴミ出しが困難な世帯については、申し出いただければ、収集日に玄関先まで回収を行っている。高齢化が進むなか、市民からのご意見があり、実施している。

委員：評価の対象としては、ペットボトルの回収など民間事業者が行われている取り組みはあがってこないと思うが、市全体ではそのような取り組みも含め、市民満足度は高まってくるのではないかと思うので、そのような効果も合わせて考えてほしい。

担当課：民間事業者が独自に行っておられる取り組みについて、費用を負担いただいているなか、無理を言えない部分もあるが、協力的な事業者もいるので、連携して取り組んでいきたい。

委員：ふれあい収集の広報はどのように行っているのか。認知が広がれば、対象者が増えてくると思われるので、その対応もしっかりと考えておかないといけない。

担当課：市の広報やHPで周知を行っている。また、「長寿ふれ愛ガイドブック」にも掲載しているほか、障がい者の方に向けては、「福祉のしおり」に記載しているが、まだまだ行き届かない部分もあると思う。

委員：一市民の印象として、「もったいない市」は、使わなくなったものをうまく利用しており、とてもよい取り組みだと思う。

委員：ゴミの回収については、河内長野市は大阪府内で率先して分別収集を実施されるなど、優れた

取り組みを進められていると思う。今後は、自然エネルギーの活用についての方策をどうするのか、視察なども行われていると思うが、河内長野市は間伐材が多く出るため、うまく活用できればよいと思う。

担当課：太陽光エネルギーについて、市では、平成28年より7か所で太陽光パネルを設置し、収入を得ている。ただし、新たに設置しても買い取り価格が下がっているので、やるのであれば別の方法を考えていかないといけないと思う。バイオマスについては、竹を粉砕したものを肥料として使用できないか、検討を進めている。実際にはかなりの手間暇がかかり、どう大量生産につなげていくかが課題となっている。間伐材については、活用方策を他部署とも連携しながら検討していきたい。

委員：住みよさ指標の3（市民1人1日あたりのごみの排出量）、5（市施設のエネルギー使用量）について、災害により災害ゴミが増えるなどの影響により、目標値を達成できていないとのことだが、災害の影響は分けて考えた方がいいのではないかと。突発的なものについては除かれて評価された方がよいと思う。評価としては「**妥当**」でよいのではないかと。

委員長：私の意見も概ね他の委員と同じである。一点、処理業者については入札で契約しているのか。

担当課：ゴミの収集は2社と随意契約しており、資源ごみの処理については、3社の見積もり合わせて選定をしている。

委員長：世間はよく見ているので、随意契約であっても公平性が担保されるように注意してほしい。委員会の評価としては「**妥当**」とする。

○施策 No. 33 観光の振興

<担当部局から評価結果の概要を説明>

<主な質問、意見>

委員：観光案内所の案内種別で、「観光行事・イベント」が前年度と比較し平成30年度は倍ほどの数字となっているが、新たなイベントを実施したからという理解でいいか。

担当課：市外に向けては、市もそうだが、民間事業者もデジタルサイネージを活用して、秋の特別公開などのプロモーションを行っている。その効果もあったのかと思う。

委員：観光ボランティア数の数値目標が当初値から減っているのはなぜか。

担当課：観光ボランティアについて高齢化による退会などから、平成27年度の数値からは減少している。日本遺産の認定を契機にボランティアの育成にも取り組んでおり、今後増やしていきたいと思う。

委員：評価としては、「**概ね妥当**」だと思う。今後、どういうところを伸ばしていくのか、のびしろがどこにあるのかと考えると難しい。リピーターがどれくらい来ているのかも気になる。

委員：商工会女性部で来月ウォークラリーを企画している。企画するなかで感じたが、河内長野市では、いいところがたくさんあるが、歩いて回するにはあまりに遠すぎるため、ルート設定が非常に難しい。食べる場所についても、大人数で利用でき、屋根があるところとなると難しい。河内長野駅前の商店街がいろいろ催しをされているが、周りに食べる場所が少ないのが事実。酒蔵などよいところもあるが、そこでプチンと途切れてしまう。うまくお客さんが市内を回れ

る仕組みを作ってもらえれば良いと思う。

委員：一所懸命、いい仕事をされていると思う。テクルートの管理状況はどうか。

担当課：100kmあるので、難しい部分はある。案内看板は200か所ぐらいにあり、どうしても壊れてしまう。清掃等の委託業務のなかで見つければ連絡してもらい、適宜対応している。

委員長：各地の観光施策をみていると、観光協会の位置付けは計画のなかでどうなっているのか、観光協会が何をを行い、行政は何を支援するのか、しっかり役割分担ができてきているのかと感じる。弱小の観光事業者は行政におんぶに抱っこになってしまう。観光入込客数は増えているが、インバウンドの影響で増えているのであって、自助努力で増えたとは思えない。観光基本計画のなかでしっかりと役割が描かれていれば良いが、事業者が独自に取り組みを進めていけるよう、この分野においても団体自治と住民自治の仕分けが必要と思う。

委員長：評価としては「概ね妥当」というところでよろしいか。

各委員：(異論なし)

○施策 No. 26 住宅環境の充実

<担当部局から評価結果の概要を説明>

<主な質問、意見>

委員：親子近居同居促進マイホーム取得補助制度が終了するとのことで、来年度がどうなるのか気になる。子どもが育つ環境として、近居同居はよいことだと思うので、何か方法を考えていただきたい。市営住宅のあり方も気になる。住まれている方が高齢化するなかで、市営住宅という枠組みで対応できるのかどうか。

委員：近所に若い夫婦がおらず、若い人がたくさん入ってきてほしいと思っている。老人の一人暮らしなど、不安ななかで暮らしている人も多いと思う。空家については、木が道に出ているところもあり、だれが管理するのかしっかりとした対策が必要である。空家をうまく活躍できないかと思うので、取り組みを引き続き検討してほしい。

委員：最近では、空家となっていたところに、新しい人が住まれるケースもあり、空家対策の取り組みの効果が少しずつできてきているのではないか。空家に係る不動産の相談会を開催され、件数があがってきているというのも、一つの成果であると思う。

委員：小山田の市営住宅跡地の活用について、何か計画されているのか。

担当課：現状は、進入路が借地になっており、まずは、その部分を現状復帰し、返却する。これが終われば、境界も確定できるので、有効な活用に向け、協議していきたいと思う。

委員：適正な跡地活用を進めてもらいたいと思う。

委員長：この施策だけでなく、総合計画の各施策の住みよさ指標に設定されているが、市民満足度は、どれだけ正確に施策の効果を反映できているのか。世相に影響される部分も大きい。数値のブレが大きく、安定的に評価できるのか。科学的信頼度について検証してほしい。関連指標に「耐震性のない建物が除却された件数」があるが、これだけを切り取られると担当者としてはきつい。耐震化が必要な母数に対し、どれだけ耐震相談があり、耐震化がどれだけできたかという指標があるべきでは。

委員長：評価としては、「概ね妥当」でいいのではないかな。

各委員：(異論なし)

委員長：各指標の数値が悪いため自己評価を「D」とされているのかと思うが、『住環境』に関する満足度、「社会動態の転入者／転出者の率」は、行政の努力だけではどうにもならない部分もある。評価としては「C」から「B⁺ (ダッシュ)」ぐらいでよいのではないかな。よくやっておられると思う。

委員：そもそも日本の住宅政策は、個人で家を持ちなさいということを前提としており、公営住宅などリースの環境はしっかりと出来上がっていない。民間が私的に持っているものを充実させていくのはかなり難しいと思う。

委員：河内長野市はホテルが少ない。泊まるところが欲しいという意見もある。

委員長：大阪府内をまわっていると、河内長野市の評価はあがっている。便利さ指標や犯罪指標、学歴指標、文化度などの指標と土地の価格を掛け合わせて、住宅施策、観光施策、文化施策を展開していけばいい。総合力で戦う時代であると思う。政令市や中核市と違い横のつながりができるのが、10万人都市のいいところである。

案件3. その他

事務局：総合計画の各施策に対する外部評価について、ここ3年は、それぞれ「総務」、「福祉・教育」、「都市環境経済」の分野から重点施策を選択し、会議の場で審議いただいていた。総合計画は、平成28年度から令和2年度が前期、令和3年度から令和7年度が後期計画と位置づけており、来年度は前期計画の最終年度であり、後期計画の策定が必要となる。そのため、来年度については、前期計画の総括として全38施策の評価をお願いしたいと考えている。具体的な手法については、来年2月頃の開催を予定している第2回会議の場でご議論いただきたいと思う。何かこの場で意見があれば、お願いしたい。

委員長：何か各委員から意見はあるか。

各委員：(特になし)

事務局：本日の会議でのご意見、また書面で評価いただく他の35施策に対するご意見については、市ホームページ等での公表を予定している。評価結果のとりまとめ、公表方法については、事務局に一任いただいてよろしいか。

委員長：事務局に一任する。